

## 8. 河道特性

湧別川は、その源を北海道紋別郡遠軽町の天狗岳(標高 1,553m)に発し、山間部の遠軽町白滝を流れ、丸瀬布で武利川が合流し、遠軽市街において平野部に出て生田原川を合わせ、湧別町においてオホーツク海に注ぐ、幹川流路延長 87km、流域面積 1,480km<sup>2</sup> の一級河川である。

### 1) 上流部 (源流部～武利川合流点)

源流部から武利川合流点に至る上流部は、渓谷を貫流し、河床勾配は 1/100 以上の急勾配であり、溪流河川の様相を呈している。周囲はエゾマツ、トドマツの針葉樹林、ミズナラ、エゾイタヤ等の混生する針広混交林が広く分布している。山間部を抜けた区間では、明瞭な瀬・淵や部分的に岩河床が露出している箇所もみられ、流れの多様な河川環境を形成し、ハナカジカやオショロコマ等が生息している。

### 2) 中流部 (武利川合流点～生田原川合流点付近)

武利川合流点から生田原川合流点に至る中流部は、河床勾配が約 1/250 程度であり、河道は蛇行を繰り返し中州や寄州が発達しているとともに、瀬・淵が明瞭な河川の様相を呈している。

河川は、サケ、カラフトマス等が遡上している他、シベリアヤツメ、エゾトミヨ等が生息している。また、マガモ、コガモ等のカモ類の休息場となっている。河川周辺の山付林には、ヤナギ林のほか、ヤチダモ、ハルニレ林が分布している。高水敷は湿性草本群落が分布しているほか、遠軽市街地では公園等が整備され、イベントやスポーツ等に利用されており、地域住民の憩いの場となっている。

### 3) 下流部 (生田原川合流点付近～河口)

生田原川合流点付近から河口に至る下流部は、河床勾配が約 1/300～1/500 程度であり、河口付近の一部が約 1/800 となっており、全川を通じて比較的急勾配である。

河道は蛇行を繰り返しながら畑地帯を流下しており、砂礫の中州等が見られ、エゾウグイやカラフトマス、ハナカジカ等が生息している。周囲は山付きと畑地が左右岸交互に見られ、オジロワシ、オオワシ、クマガラ等の鳥類のほか、河畔林内の水溜り等がエゾサンショウウオやエゾアカガエルの産卵場所となっている。

また、河口付近は比較的緩勾配で、河道は大きく蛇行し、ワンドや細流、瀬・淵等の多様な河川環境を形成している。この区間には感潮区間があり、マルタウグイやエゾハナカジカ等の感潮域に生息する魚類の生息地になっており、河口付近の緩やかな流れは、ヒシクイ、オシドリ等のガン・カモ類やカモメ類の越冬地及び渡りの中継地として利用されている。また、河口部左岸の砂丘地には、ハマニンクやハマナスの砂丘植生が生育している。

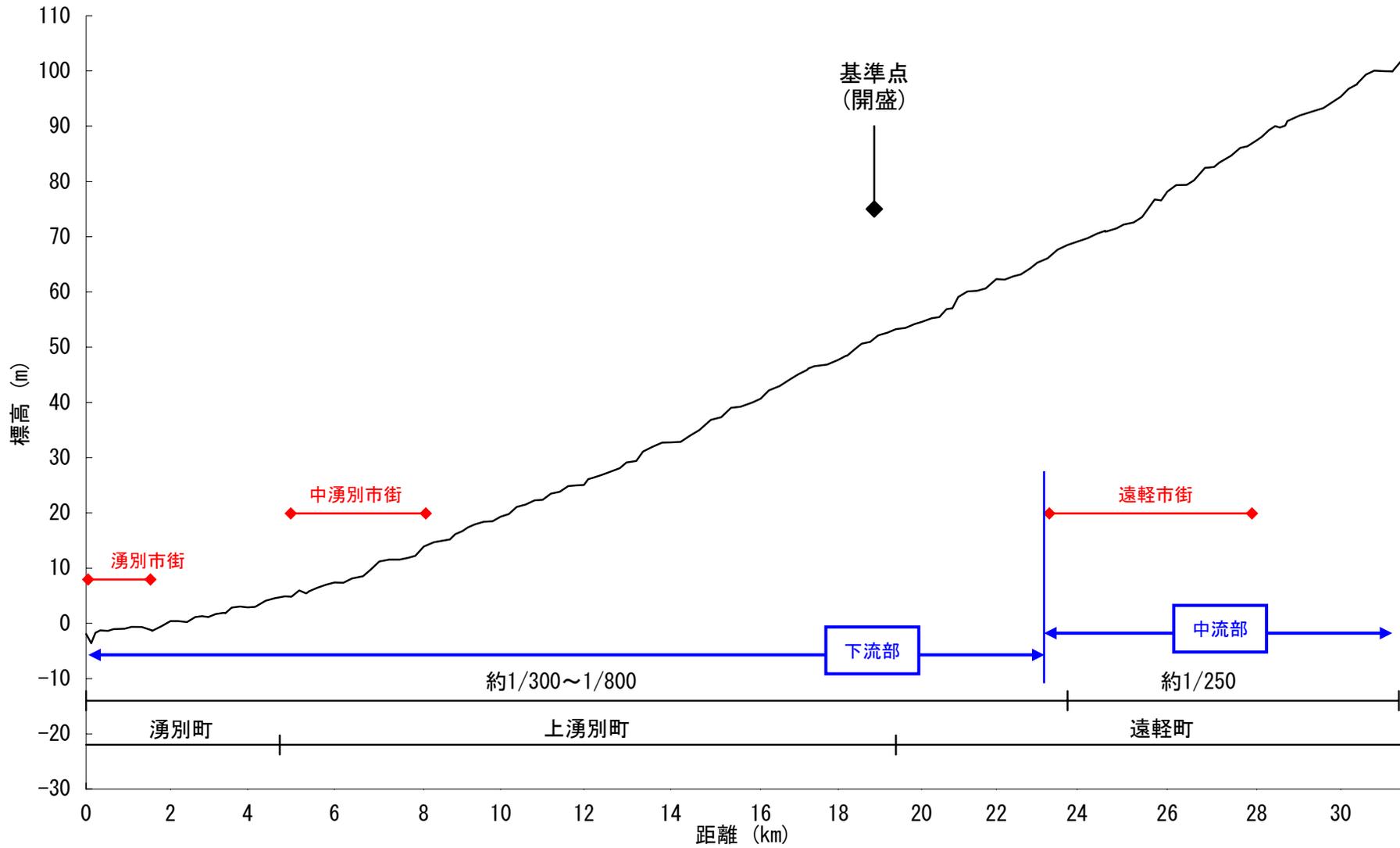


図 8-1 湧別川水系 湧別川 河床高縦断面図 (直轄管理区間)